

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

3月・4月の活動予定

■ちよっくま調理室でハト麦焙煎



3月7日（金）に上熊井農産物直売所（ちよっくま）の調理室で、昨年収穫できたハト麦（約7kg 完熟した黒色の粒）の焙煎パッケージ作業をします。「30袋納品してほしい」という横浜の健康自然食品のお店から注文があったからです。去年、仲間3人で食品衛生責任者の資格を取っておいのが役立った！加工所探しの他にも、検便、使用許可申請、食品営業賠償共済の加入やらで大変でしたが、安心して飲めるハト麦茶の出荷に向けてスタートです。

■ツリーハウス・プロジェクトの初会合



▲参考イメージ

3月20日（木・祝日）、午前10時より、初夢として提案のあった「熊井の森にツリーハウスを作ろう」プロジェクトの初会合をかわせみハウスで開きます。まだ具体的には何も決まっています。この話に興味を持った人がまず集まって、アイデア

を出し合いたい。資金のこと、作業要員のこと、資材の調達のことなど課題は山積みですが、盛り上がって行けば、夢が本物になるかもしれない。そんな期待を胸に、ツリーハウス作りを楽しもうという方、お集まりください。

■マルシェ写真展・フォトウォークを開催

3月21日から23日までの3日間、昨年2月に開催した「写真展」を、鳩山ニュータウン中央のコミュニティー

センター1階「マルシェブース」で開催します。

この写真展は写真学校参加者たちの合同写真展です。昨年は助成金で経費をまかないましたが、今回は、会員同士が費用を出し合う独自開催です。ネイチャーフォトにこだわらない幅広いジャンルの写真の展示となっています。ぜひお越しいただき、力作をご鑑賞ください。

また、写真学校メンバー有志企画で、3月23日午前9時から午後3時の間、東松山市の埼玉県立こども動物公園内でフォトウォークを行います。写真学校講師と一緒に写真を撮りながら散策しようという初めての試みです。



▲絶景写真展での受講者作品コーナー（2024年2月20日）

■サイサン環境保全基金授与式で活動報告

4月19日（土）午後1時より、（公財）サイサン環境保全基金事務局のあるKSビル（さいたま市大宮区桜木町）で、2025年度助成先決定書授与式があります。当団体はこれまで何度も助成金を頂いており、次年度助成も申請中（決定は未定）ですが、1月の早い時期に、同基金事務局から「活動事例報告をしてほしい」との依頼があり、当日、パワーポイントで15分ほどの活動報告をしてきます。

3月・4月 活動スケジュール

- | | | | |
|----|---------------|--------|-------------|
| 3月 | 2日（日） | 午前8時～ | 資源回収 |
| | 7日（金） | 午前9時～ | ハト麦焙煎作業 |
| | 16日（日） | 午前9時半～ | 理事会 |
| | | 午後1時半～ | 定例観察会 |
| | 20日（木） | 午前10時～ | ツリーハウス会議 |
| | 21日（金）～23日（日） | | マルシェ写真展 |
| | 23日（日） | 午前9時～ | フォトウォーク |
| | 25日（火） | | 熊井の森通信40号発行 |
| 4月 | 6日（日） | 午前8時～ | 資源回収 |
| | 19日（土） | 午後1時～ | サイサン保全基金授与式 |
| | 20日（日） | 午前9時半～ | 理事会 |
| | | 午後1時半～ | 定例観察会 |
| | 29日（火） | | 熊井の森通信41号発行 |

2月の活動報告

■彩の国埼玉環境大賞（優秀賞）の表彰式に出席



▲表彰式（左は大野元裕県知事、右は川原泰博テレビ埼玉社長）

2月7日（金）午後2時より、埼玉県知事公館で催された令和6年度彩の国埼玉環境大賞（県民部門優秀賞）の表彰式に出席して来ました。県民部門の大賞は見沼たんぼの不耕作地で菜種や野菜を栽培などの自然循環型農業を実践している「NPO法人地域人ネットワーク」。優秀賞は当団体のほか、「チームアライグマ 高校生合同研究グループ」「利根川の魅力を育む会」など5団体。副賞はデジタル置き時計とテレ玉くんのぬいぐるみです。「知事公館での授賞式ということで、緊張感に包まれる式になるかと思っていましたが、知事やテレ玉社長、受賞者皆さんがにこやかで、穏やかな雰囲気での式でした。各団体それぞれが知恵を出して、がんばって活動しているんだなあと思いました。」（嵯峨千代美）

■2025年度サイサン環境保全基金を申請

2月12日（水）、（公財）サイサン環境保全基金に助成金申請をしました。申請対象活動は「熊井の森 里山再生事業」で、アナグマ等の生態調査、熊井の森臨縁部での自然観察会、休耕地での無農薬による自然循環型農業（共同菜園、ハト麦栽培、協生農法）、及び、それらの活動への参加を促す動画制作です。審査結果は4月19日。申請にあたっては、お借りする畑の地権者4人の承諾書をいただきました。ありがとうございます。

■トラスト3号地ピザ窯側斜面にトレイル設置



1月20日（月）のトレイル作りでは、事前調査でわかったアナグマの巣穴エリアや希少種ラン、実生モミの幼木を避けたルート設定を元に、モミの巨木脇からトラスト3号地頂上ヘジグザグに登るルート

のモミ幼木の植え替えなどを行いました。2月9日（日）にはその作業の続きで、トレイルの斜面側の補強と、傾斜が急になっているところの踊り場での階段づくり（写真）をしました。

階段と言っても、防腐処理のしてある杭（補助金で購入）を打ち込み、現地で拾ってきた枯木を横木にして、隙間に枯木や土を押し込んで平らにするという作業。見た目がとてもナチュラルでやさしい感じでした。

今年から、この周辺でのアナグマなどの哺乳類の赤外線カメラでの確認調査を始めます。その結果、問題があったらトレイルルートの変更があるかもしれません。

■植え付け準備で今年初めての協生農園入り



2月20日（木）、植付の準備のため、今年初めての農園入り。昨年から始めた協生農法農園ですが、残念ながら、種まきのタイミングが遅かったこと、猛暑で雑草の成長が早かったこと、それに対応しての草刈りができなかったことなどから、播いた種がほとんど消えてしまいました。今年こそは成功させようと、どんな種を播くか、どこに何を播くか、農園をどこまで利用するかを農園を見ながら検討するのが目的です。昨年は勝手がわからず、250坪ほどある農園の内30坪ほどしか使っていませんでしたが、今年は、この農園のほとんどを使ってみたい。作付けの種や苗も、昨年は40種ほどでしたが、今年は80～100種ほど用意しようと思っています。ぜひ応援してください。（井田清）

■改訂版「鳩山町 暮らしの便利帳」に広告出稿

鳩山町は、生活に必要な情報（各種届、年金、防災、医療機関、町自然・歴史文化など）を掲載した「鳩山町暮らしの便利帳」（A4サイズ64頁）を3年毎に改訂して全世帯及び転入者に配布しています。このほど、2025年度版の発行に当たって、広告掲載（有料）の依頼が当団体にもありました。理事会で検討の結果、「熊井の森の素晴らしさを知ってもらい、里山保全・再生の活動への協力者を募る上で効果が期待できる」と判断し、鳩山の自然紹介のページに広告を出稿することにしました。3月には配布予定。



■鳩山町の観光集客・移住促進政策の現状を聞く ——鳩山町まちづくり出前講座——



2月18日（火）午前10時より、かわせみハウスで出前講座を開催。町からは政策財政課、産業振興課、教育委員会の文化財担当者ら7人が説明に来られ、南比企業跡群の文化財産を生かした政策としては、焼き物づくりや若手作家の育成優遇処置など、観光政策では、自然の魅力を紹介する「鳩山探索マップ」の発行や町外イベントとの連携、移住促進政策では、子育て支援と移住支援に力点を置き、シェアハウスの運営と移住相談窓口業務はRFA（マルシェの指定管理者）に業務委託、レインポー（川越都市圏まちづくり）協議会への加入等の説明がありました。パワーポイントを使って、3部署で30分程度とコンパクトで要領の得た説明には、さすが若い職員たちのプレゼンは違うと感心しました。

若い世代の鳩山町への転入は微増

参加者は10人も満たない小人数でしたが、質問や意見が活発に出ました。移住の現況として、令和4年で転出357人、転入386人、18歳以下では転出43人、転入56人と微増していて、移住の理由は「鳩山の自然が素晴らしいから」が最も多いそうです。会場からは移住対策にはシングルマザーの子育てに取り組むべきではないか、電大などの学生アパートにシェアハウスが使える

出前講座に参加して

行政（職員・組織による行動）もそれなりに成果を出しているとの印象を受けました。

しかし、大きな課題は、ガバナンス（統治・管理・支配）によって全体をまとめることができていないことです。それぞれ、空き家活用、介護支援、育児児童幼児支援、史跡保護、農産物販売ほか、行政も民間（当NPOも含め）もいろいろと活動しているものの、それらを含めた「指針と計画（例：鳩山町の魅力として売り出すとか）」がどこにもありません。

個々の事業をマルシェやちよっくまの指定管理者に丸投げしても構いませんが、マルシェの活動を町が「指針と計画」なく委託すれば、ガバナンスは効きません。単になんとかニュータウンの住民が集まる場所でイベントや販売が可能、という「位置」に留まってしまっていて、包括概念（例：魅力ある鳩山町をつくり上げる）が感じられません。このような概念があれば、「指針と計画」も作れますし、マルシェの「位置」も「存在」も「役割」も変わってきます。また、なによりもガバナンスを効かせられます。

行政は「魅力ある鳩山町」という概念で「指針と計画」をつくり、マルシェや農協直売所を、鳩山町の魅力のひとつにすることです。このような意識をもって動く「人」を行政内部で生み出してほしいですし、それは私たち住民の責任でもあるでしょう。（下川敬明）

ないか、ふれあいセンター1階「マルシェ」施設にあるレストスペースは飲食が前提で有料。ふれあいセンターは町民サービス施設なのに、町民が無料でゆっくり居られる憩いの場所がないのはおかしい（まちおこしカフェは指定管理者管轄、隣接する福祉協議会運営のニュータウンふくしプラザなら無料）などの意見がありました。

鳩山の「里山」の魅力を訴えて認知度アップを

産業振興課の説明では、観光政策の課題として①交通アクセス方法の発信、②個人商店の店舗数の拡大、③認知度のアップの3点があるとのこと。それらへの取り組み事例の紹介がありました。環境フォーラムは、まちづくり懇談会（3回開催）で議論してきた「鳩山の自然財産を活用した観光集客・移住促進プラン」（試案）の概要を説明し、「鳩山の魅力を個別にPRするだけでは不十分。たとえば、鳩山町全体を『SDGs最先端タウン』はとやま里山ワンダーランド』としてパッケージして発信PRしたらどうか。そうすれば、海外も含めて認知度アップが図れる」と提案。職員からは「ご意見ご提案は承ります」とのことでした。こうした役場との、あるいは町民同士の意見交換はこれからも続けたいものです。



▲小冊子「にじたびMAP」川越市を中心とした広域連携圏に鳩山も加入

はとやま環境フォーラムにご入会下さい

★2025年度会費（3,000円）

■ゆうちょ銀行 店名 ○三八 店番038 普通預金
口座番号 96656981
口座名義 トクハトヤマキョウフォーラム

熊井の森トラスト基金へのご支援を

★1口 5000円から

<振替口座> ■ゆうちょ銀行
記号番号 00210-4-143207
加入者名 熊井の森トラスト基金

<普通口座> ■ゆうちょ銀行 支店 ○三八
口座番号 9472664
口座名義 クマイノモリトラストキキン
(熊井の森トラスト基金)

定例観察会のご案内

開催日 : 毎月第3日曜日
集合場所 : かわせみハウス前
集合時間 : 午後1時半
(終わりは午後3時過ぎごろ)



はとやま環境フォーラムは熊井の森のより良い在り方を探るため、月に一度、熊井の森に入り、森や周辺の変化を楽しみながら、その時々に出会えた生き物を観察記録する定例観察会を行っています。

ご興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。
鳩山ニュータウンかわせみハウス前に午後1時半に待ち合せて、相乗りで熊井の森に向かい、帰りも一緒にできます。

二ノハオ 熊井の森歳時記 ㊤

雑草の越冬戦略、すごい！



▲ギシギシ（1月19日 熊井にて）

多くの雑草は秋から冬にかけて種をこぼす株を枯らして冬越しをするのですが、一部の雑草は葉っぱのまま寒い冬と戦います。

春紫苑①・羊蹄②・背高泡立草・薺③など、春になると茎を伸ばして生長していくものもあれば、蒲公英④・大葉子⑤・田平子⑥のような生涯を通じてほぼ同じ姿で過ごすものもあります。いずれも冬の間は地面にへばり付き、ロゼット状の形で冷たい風や空気に立ち向かいます。その低い姿勢のおかげで、昔は馬や牛の口からも容易に逃られたのでしょう。さらに、一枚一枚の葉っぱはたっぷりと冬の太陽の光を吸収し、全身に栄養を送ることができます。こうすることで、暖かくなってからようやく発芽をはじめめる植物よりも一足早く成長でき、葉っぱが覆ったエリアを自分の縄張りとして主張してどんどん優位に立ちます。羊蹄や背高泡立草は典型的な例ですが、繁殖しすぎて退治不能で困ります。

食べられるものならもちろん大歓迎です。例えば、薺と蒲公英。春には新鮮な薺を採ってきて細かく刻んで炒り卵と混ぜて水餃子にするのが春先の楽しみでした。夏には蒲公英を根っこごと掘って天日干しにして蒲公英茶にします。最近では蒲公英コーヒーも流行っているそうです。なにかかも雑草たちが遅く越冬できたおかげです。ありがとう！（王 菲）

読み ①ハルジオン ②ギシギシ ③ナズナ ④タンポポ ⑤オオバコ ⑥タビラコ

森の中へ

自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り ㊫

熊井の森の空を見上げると……



▲トビorノスリ？

熊井の森の入り口にある谷津田(やつだ)（谷間にある田んぼ）を散歩していると猛禽類(もうきんるい)（タカの仲間）が飛んでいるのがそこそこの頻度で見られます。

よく晴れた日が特にお勧めで、空を見上げていると上昇気流を捕まえて空をぐるぐる回っている姿や左右の林から谷津田を飛び越えていく姿を見かけることが多いです。タカに限らず飛んでいる鳥を限られた時間内で見分けるのはなかなか難しいのですが、中には見分けが付きやすい種類もいくつかあり、ざっくりとした見分けのコツもあります。

まずは大きさで、「カラスよりもとても大きいか」、「カラスと同じぐらいか」、「ハトよりも小さいか」の3つのパターンで分け、次に似たような見た目の鳥の特徴に移ってゆきます。

例えばカラスよりだいぶ大きく尾羽がバチ状でお腹も含めて全身茶色っぽいトビ(トンビ)や、同じくカラスよりもだいぶ大きいけれどもお腹や翼の大部分が白っぽく見え、尾羽がバチ状ではないノスリ、カラスより少し大きいぐらいの大きさでお腹が白いオオタカ(オオタカという名前の割りにさして大きくはない)やオオタカとほとんど同じ見た目だけれども尾羽が少し細長いハイタカや、よくヘビを捕まえて飛んでいる姿を見るサシバ、などのように見分けていくと、熊井の森周辺の谷津田で見られる猛禽類は概ね見分けられます。(愛場 結偉)